

# 平成 23 年度社団法人新潟県臨床検査技師会 第 2 回通常総会

期 日 平成 24 年 3 月 10 日 (土)

会 場 パストラル長岡 扇の間

## 総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓紹介
4. 議長選出
5. 議長挨拶
6. 総会役員選出
7. 資格審査報告
8. 議事
  - 1) 第 1 号議案 平成 24 年度事業計画 (案) について
  - 2) 第 2 号議案 平成 24 年度予算報告 (案) について
  - 3) 第 3 号議案 新潟県臨床検査技師会の定款変更 (案) について
  - 4) 第 4 号議案 支部提出議案について
  - 5) 第 5 号議案 日臨技定期総会提出議案について
  - 6) その他
9. 総会役員解任
10. 議長挨拶
11. 閉会の辞

## 第1号議案

### 平成24年度事業計画（案）

#### 平成24年度事業方針

当技師会は学術職能団体として会員ニーズに応えることと、臨床検査技師の県民への知名度向上を目指した事業展開を図りたい。会員個々の組織体である技師会として何をなすべきか。そして何が出来るのかを常に考え行動したい。

日臨技の一般社団法人移行に関連し、東北技師会は北海道とともに日臨技の北日本支部となるが、東北地区での学術研修活動を停滞させることのないよう他県と強調して行く。また、日臨技の会長選挙も予定されており、その結果によっては多少の混乱も予想されるが、当技師会としては主体性を持って活動したい。

具体的には、2014年の日本医学検査学会が新潟県で開催されることが正式に決定したことに伴い、渡辺副会長を学会長に据えて準備作業を本格化させる。東北地区ブロックを代表して担当するので、不退転の決意で望むが、会員各位からも絶大なご支援とご協力をお願いしたい。

懸案事項となっている法人移行問題については、この度の定款変更を経て各種規程の変更等、申請手続きを加速させ平成24年度中に移行を完了する。

昨年から募集している県技師会災害支援ネットワークについては、東北地区の賛同を得て各県で支援ネットワークを構築して、更に各県をネットワークで結ぶことにより、災害支援の規範として東北地区から全国に発信して行く構想があるので、各会員も是非参画をお願いしたい。それにも関連するが、東日本大震災被災県への支援については、被災者健診への参画等何らかの支援を継続したい。

恒例化して来た各種公益活動については、昨年立ち上げた公益委員会と各支部が連携しながら諸事業に対応していかなければいけないが、ボランティア募集に苦慮しているので、県民への奉仕の精神に期待したい。また、公益活動だけではなく臨床検査技師の貢献度や意識を向上するため各施設内での広報活動についても重要なので、広報部を中心に各施設での現状等情報提供を検討したい。

今年度の新規事業や懸案事業を中心に述べてきたが、第6回になる臨床検査セミナー、秋の県学会等の継続事業詳細については、総務部門、学術部門、広報部門から提案する。

これら諸事業の遂行には、会員各位のご理解とご支援が何より必要となるので、今後ともよろしく願いしたい。

## 【総務部】

### 1. 会務の執行体制

平成24年度は役員任期後期にあたるが、円滑な業務運営を進めるためにも、マニュアルの見直しと周知に務め、さらなる業務の標準化を図りたい。

また、事務局（専従）機能を充実させ、各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上を図りたい。

組織強化の面からは、日臨技、東北臨技、各支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制作りを整えなければならない。

新公益法人制度改革については、公益社団法人格移行を断念し一般社団へ移行することが決定している。今後は、定款等の見直し変更を行い申請に向け準備をして行く。新臨技としては国民および県民の保健・医療・公衆衛生に貢献する団体として、関連事業へ積極的に参加し活動して行く。

### 2. 諸会議

#### 1) 理事会・常任理事会

会議の招集、運営が非常に厳しい状況ではあるが、連携を密にするためにも、会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら、総会に次ぐ議決機関として年6回の理事会を行い、常任理事会は毎月1回の定例開催を維持したい。

#### 2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

#### 3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っているが、本年度も更に活発に運営して行きたい。

昨年度に災害被災県としての反省と今後の災害に備え、災害対策委員会を立ち上げ災害支援マニュアルを作成し、全国から注目されている。災害支援マニュアルにある災害支援メーリングリストの登録者を増やし、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものと期待している。

業務が益々多忙になる中で、積極的な業務の見直しと効率化を図って行きたい。

#### 4) 全国学会WG

2014年の日臨技全国学会新潟県開催が決定したことから、会議やメール等を利用し開催準備に向け積極的に活動して行く。

### 3. 組織対策

#### 1) 臨床検査セミナー

毎年、第1回通常総会と同時開催している臨床検査セミナーは、6年目を迎え技師会事業として定着している。内容も市民公開講座による臨床検査技師のアピールや、臨床検査技師の卒後教育等を企画し自己研鑽の場ともなっており、今後も積極的に開催していく。

#### 2) 各支部との連携

各支部持ち回りの秋の学会運営が定着しており、開催支部の特色を出しながら支部主導のもとに多くの会員参加を募り、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

### 3) 入会対策

引き続き厳しい医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大が重要であり、各支部、各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。

また、日臨技がすすめる検査技師連盟への入会促進に積極的に取り組み、臨床検査技師の地位向上と業務の拡大を図りたい。

### 4) 会員名簿の発行

隔年発行している会員名簿については、会務の運営ならびに会員相互の連携を図るうえで欠かすことが出来ないものであり、個人情報保護法を遵守し会員からの要望を踏まえ、配付を新潟県臨床検査技師会理事および各種委員、会員施設、賛助会員とした。

## 4. 公益活動（地域保健医療活動）

公益法人の使命でもある県民の保健・医療・公衆衛生の向上と臨床検査技師の社会貢献による知名度向上を目的に、日臨技の公益事業計画および学会時の公開講演や健康展、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画して行く。

## 5. 無料職業紹介事業

厳しさを増している就職情勢ではあるが、日臨技や各支部長と協力、連携して情報交換を行い、積極的に対応したい。

## 6. 表彰関係

### 1) 篠川至賞

平成24年度で第30回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。各支部からの積極的な推薦をお願いする。

### 2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審議を経て、平成24年度通常総会において表彰する。

### 3) 第53回東北医学検査学会表彰

新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審議を経て、学会担当県技師会に推薦する。表彰は学会式典において行われる。

### 4) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を推薦する。

### 5) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点終了者を表彰する。

## 【学術部】

### 1. 学会

平成24年10月に第88回新潟県臨床検査学会を開催する予定である。今回の担当は中越支部であり、会場は長岡市を予定している。認定技師制度に伴い認定資格更新のための指定講習会を学会で開催予定である。その他、例年同様に一般演題・レクチャー・ランチョンセミナー・を実施する予定である。

会 期：平成24年11月28日（日）

会 場：北里大学保健衛生専門学院

テーマ：未 定

内 容：一般演題・レクチャー・ランチョンセミナー

### 2. 検査研究部門

検査研究部門の各種研修会は技師会の最も重要な活動のひとつである。医療制度や検査室運営体制、検査技術が激しく変化する状況においては、ますます重要な責務を負うものとする。

研究組織は6部門で構成し、臨床化学分野、免疫血清分野、染色体・遺伝子分野、機能検査分野、画像検査分野、細胞分野、病理分野、一般検査分野、血液分野、微生物分野、疫学・公衆衛生分野、輸血・移植分野、管理運営分野の13研究分野を実質的な活動単位とする。

1分野あたりの活動費助成金は昨年度と同額の8万円とし、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度の参加費で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は、会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とし特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は、初心者や認定技師取得教育、最新情報などのバランスを考慮して、様々な状況にある会員に有用な情報をバランスよく発信できるように体制を整備する。技術的な垣根が薄れつつある分野では、複数分野の合同研修会や、相互補完研修会を企画する。若手・初級・中級・小規模施設などの人財育成と魅力ある学術活動を目指し、研究分野と協力して検査研究部門としての系統的な生涯教育を行いたい。実習形式による研修会を積極的に推進する。

研修会開催日の重複を避けるため、研究分野や支部との連絡を密に行い調整を図る。研修会開催日や場所は十分考慮し、地域格差を軽減する。

若手技師に対する学会発表や論文作成などの技術的なサポート体制を整備する。特に、新潟県で開催される平成26年度日本医学検査学会に向けて新臨技技師の挑戦を手助けする。

### 3. 精度管理事業

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、会員の技術向上に重要な事業であるという位置づけで本年度も積極的に協力していく。

関係専門スタッフで構成された精度管理委員会の中心活動として、本事業の内容を更に充実、発展させていきたい。また本年度も臨床化学、微生物、血球計算の調査を可能な限り実施していきたいと考えている。

平成19年度より日臨技データ標準化事業がスタートし、それを踏まえ実施項目を増やし、標準物質が入

手可能な項目については随時評価を行なってきたが、本年度もそれらに努めたい。更に実施要項ダウンロード、結果入力についてを Web 利用を検討し、会員にとってより簡便になるように努めていきたい。また、日臨技で一昨年より「臨床検査室精度保証認証制度」が始まった。一昨年度は 17 施設であったが、昨年は 3 施設と減少してしまった。今年度は多くの施設が申請を行なっていただくように啓蒙を進めていきたい。

#### 4. 生涯教育

生涯教育研修制度は、検査技師の知識・技術水準の維持向上を目的とし、会員の学習を組織的に援助する制度であり、定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得するものである。会員の履修点数は日臨技情報総合システムである JAMTIS を用いることにより管理されており、各都道府県技師会で行事・参加者登録を行っている。

当初、今年度から日臨技が一括して生涯教育事業を行う予定だったが見送られ、例年どおり県技師会が業務を遂行した。生涯教育事業を迅速かつ正確に、そして変更等にも柔軟に対応できるよう各検査研究部門長と各支部担当者へ登録業務を一任し、協力体制の基、円滑な事業の推進に努めた。一部、登録漏れなどの不具合が発生したが、概ね満足できる内容であった。生じたエラーを真摯に受け止め、来年度への課題とし改善に努めて参りたい。

#### 【広報部】

新臨技会誌、新臨技ニュースおよび新臨技ホームページの運営を通して全会員へ向けたレスポンスの良い情報を提供していきたい。平成 24 年度は役員任期後期となることから、会誌編集委員および HP 委員の努力と協力を基に、会員への情報提供時間短縮により努めたい。具体的には、HP での各種研修会案内や公益活動予定（ボランティア募集を含む）さらに新潟県臨床検査学会要綱、一般演題投稿規定等を情報が入り次第迅速に対応していく。新臨技会誌においては、新潟県臨床検査学会抄録掲載号を現状より早期に発刊できるよう努力する。今後会員への情報発信をより迅速化し、大きく貢献できるものと期待している。新潟県臨床技師会は、平成 26 年に開催予定されている全国学会を斬新な企画で成功させるため時代のニーズに対応したシステムインテグレーションおよび IT イノベーションを駆使し広報活動していきたい。そのため、県理事、各支部理事および会員全員で情報の共有化を尚一層強化していかなければならない。新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページはその大きな役割を担っており、広報委員一同は、会誌や HP の充実に熱意を持って取り組んでいく。

##### 1) 新臨技会誌

会誌発行は 283 号から 286 号までの年 4 回季刊発行を予定する。〔講義〕は学会・研修会等の内容を掲載し、受講できなかった会員のために適宜掲載していきたい。また、講義の内容は部門長を通してすべての分野から投稿していただくように広報活動にも力をいれる。〔研修会報告〕は参加会員の協力により引き続き掲載し、情報提供や新人会員の研鑽の頁としたい。親睦広報に関しては〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～〕などの掲載で会員相互の親睦をはかり、だれもが参加できる企画を増やしていきたい。さらに、今まで以上に公益活動内容を紹介し、多くの会員にボランティア参加していただくため〔公益活動報告〕を掲載していく。

今後は、臨床検査技師の知名度を向上させるため、各施設の臨床検査技師による広報活動を調査掲載し、それぞれの検査業務内容をアピールする手助けを行う予定である。

## 2) 新臨技ニュース

理事会議事録の掲載を中心に、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性のある内容を順次掲載していきたい。発行は理事会終了後の月1回発行しているが、委員の努力により読みやすいレイアウトになっている。求人情報など早めに情報が入手でき好評である。今後も広く会員に読まれるよう工夫していきたい。

## 3) 新臨技ホームページ

新臨技HPは、案内・各支部活動・研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧できることより、世代を問わず多くの会員から好評を得ている。引続き事務局との連絡を密にして、県内の会員に情報提供できるよう努めたい。

また、当技師会は、大規模災害時での施設および会員安否確認のため災害時緊急連絡システム（メーリングリスト）を全国に先駆けて構築している。インターネット・インフラの強みが先の大震災で証明され、災害被災県である我が県が、災害支援事業でリーダーシップを発揮し全国を牽引していくためにも、一人でも多くの新臨技会員の登録をお願いしたい。（詳細は県技師会ホームページ参照）

## 第2号議案

### 平成24年度収支予算（案）

予算編集に当たって

今回の予算編集は事業費に関する費用、特に組織強化費を中心に費用の編成を行い、平成24年度の予算編成を行った。昨今の経済状況の低迷により昨年同様、企業合併などによる賛助会員および広告数の減少ならびに、団塊の世代の退職も重なり会員数の減少も懸念されるが、今後も会員数の維持、増加に努めたい。

新法人化に向けて、会員サービスの向上や更なる公益事業を充実させ予算の効率的運用を目指す。

以下に、予算編成の要点を示し、平成24年度予算の提案としたい。

収入について

1. 会費収入：正会員は昨年よりやや増加傾向の1224名とし、賛助会員は68口とした。
2. 事業収入：会誌広告収入は会員名簿作成がないので減額。
3. 助成金収入：日臨技からの公益目的事業助成金が減少のため減額とした。
4. 雑収入：県学会の協賛賛助会員施設の減少により減額とした。

支出について

1. 事業費：学術活動費は各分野活発に活動しているので増額。  
総会費は例年同様とした。  
広報費については会誌発行費を会員名簿作成がないため減額。  
支部強化費はバーコードリーダー更新がないので減額とした。  
組織広報費は公益事業を各支部内で負担していただいている部分もあり減額。  
災害対策費は備品類の購入がないので減額とした。
2. 管理費：交通費をやや減額とし、報酬費に充てた。他の科目は昨年同様とした。
3. 特定預金支出：学会引当預金支出は継続。

### 平成24年度収支予算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

収入の部

大科目	中科目	小科目	平成24年度予算	平成23年度予算	差異	摘要
会費収入			8,092,000	8,070,000	22,000	
		正会員会費	6,732,000	6,710,000	22,000	1,224名
		賛助会員会費	1,360,000	1,360,000	0	68口
事業収入			4,340,000	4,650,000	△ 310,000	
		参加費収入	1,500,000	850,000	650,000	県学会、検査研究部門
		会誌広告収入	540,000	1,100,000	△ 560,000	会誌広告料
		助成金収入	2,300,000	2,700,000	△ 400,000	日臨技、県医師会
雑収入			1,005,000	2,205,000	△ 1,200,000	
		預金利息収入	5,000	5,000	0	
		雑収入	1,000,000	2,200,000	△ 1,200,000	協賛金等
当期収入合計 A			13,437,000	14,925,000	△ 1,488,000	
前期繰越収支差額			1,000,000	1,000,000	0	
収入合計 B			14,437,000	15,925,000	△ 1,488,000	



支 出 の 部

大科目	中科目	小科目	平成 24 年度予算	平成 23 年度予算	差異	摘要
事業費			9,100,000	10,450,000	△ 1,350,000	
	学術研究費		4,050,000	3,990,000	60,000	
		学会費	1,000,000	1,000,000	0	第 88 回新潟県学会
		学術部活動費	2,200,000	1,900,000	300,000	研究部門活動費
		精度保障事業費	400,000	640,000	△ 240,000	新潟県精度管理事業等
		負担金	350,000	350,000	0	東北技師会負担金
		雑費	100,000	100,000	0	源泉徴収税等
	総会費		1,250,000	1,250,000	0	
		準備費	250,000	250,000	0	賞状作成費等
		運営費	1,000,000	1,000,000	0	セミナー開催費
	広報費		2,500,000	3,010,000	△ 510,000	
		会誌発行費	2,000,000	2,510,000	△ 510,000	会誌 4 号
		広報編集費	500,000	500,000	0	広報委員会・HP 維持管理費
	組織強化費		1,300,000	2,200,000	△ 900,000	
		支部強化費	600,000	800,000	△ 200,000	各支部助成金
		組織公報費	500,000	600,000	△ 100,000	各支部公益事業負担
		災害対策費	200,000	800,000	△ 600,000	
管理費			4,910,000	4,910,000	0	
	事務費		2,400,000	2,400,000	0	
		備品費	200,000	200,000	0	パソコンソフト備品等
		消耗品費	100,000	100,000	0	文房具、封筒
		印刷費	300,000	300,000	0	各種案内コピー等
		通信費	500,000	500,000	0	案内発送
		交通費	350,000	400,000	△ 50,000	日臨技、東北会議
		渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体、支部対策
		報酬費	650,000	600,000	50,000	事務職員報酬等
	会議費	旅費	600,000	600,000	0	理事会旅費
	事務所費		1,730,000	1,730,000	0	
		維持管理費	1,600,000	1,600,000	0	賃貸料、電気代
		電話費	100,000	100,000	0	
		事務所雑費	30,000	30,000	0	
	雑費		180,000	180,000	0	
		交際費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
		雑費	30,000	30,000	0	
特定預金支出			300,000	300,000	0	
	会館建設引当預金支出		0	0	0	
	学会引当預金支出		300,000	300,000	0	第 56 回東北学会積立
予備費			127,000	265,000	△ 138,000	
当期支出合計	C		14,437,000	15,925,000	△ 1,488,000	
当期収支差額	A - C		△ 1,000,000	△ 1,000,000	0	
次期繰越収支差額	B - C		0	0	0	

注 1:短期借入金限度額 1,000,000 円

注 2:債務負担額はない